

西南暖地における低地と山地の2酪農場の比較による 受胎率に及ぼす要因解析

谷 峰人^{1, 2)} 林田拓也²⁾ 友川浩一郎²⁾ 水戸康明²⁾ 船越大資²⁾
谷 千賀子²⁾ 北原 豪³⁾ 上村俊一^{3)†}

- 1) 山口大学大学院連合獣医学研究科 (〒753-8515 山口市吉田1677-1)
- 2) 熊本県 開業 (託麻家畜診療所: 〒861-8041 熊本市戸島3-13-41)
- 3) 宮崎大学農学部 (〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1)

(2009年9月11日受付・2009年12月2日受理)

要 約

西南暖地の低地(標高38m)に位置するA酪農場(飼育経産牛117頭, 夏季の平均気温27.5℃)と同・山地(標高795m)に位置するB酪農場(77頭, 同23.2℃)について, 季節, 気温湿度指数(THI)および泌乳時期が受胎率に及ぼす影響を2001年4月~2009年3月の8年間にわたり, のべ3,581頭について調査した. 年間発情発見率の平均は, A, B酪農場それぞれ39.1%, 40.9%で差はなかった. 受胎率はA酪農場ではTHIが72を越えると20%以下となり, 夏季に泌乳時期が51~110日のもので14.2%となり, 秋~春季の32.8%より有意($P < 0.01$)に低下した. しかし, B酪農場では夏季と秋~春季による違いは認められなかった. 以上のように, 西南暖地の低地に位置する酪農場においては夏季に泌乳時期が51~110日のものでは受胎率が低下し, 暑熱が繁殖成績の低下する大きな要因であることが判明した. —キーワード: 受胎率, 乳牛, 暑熱ストレス.

----- 日獣会誌 63, 194~197 (2010)

† 連絡責任者: 上村俊一 (宮崎大学農学部獣医学科獣医臨床繁殖学研究室)

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1 ☎・FAX 0985-58-7787 E-mail: kamimuras@cc.miyazaki-u.ac.jp